

★“平成元年”雑感

1月7日早朝、ラジオ体操をしようとラジオのスイッチを入れたら、天皇陛下が危篤だと言ひ、何やらあわただしい様子。出勤途上、駅の構内アナウンスで崩御されたことを知った。それから2日間、テレビ、ラジオ、新聞はそれらの関連番組のオンパレード、おかげでレンタルビデオ店が大はやりだったとか…。

私もつられて皇居前広場へと行ってきたが、記帳の列に黙々と並ぶ人、手を合わせる人、記念写真を撮る人、それらを8ミリでねらう私…。いずれももう二度と体験しないであろう出来事に何か思い出を残しておきたいという人々の思いが皇居前へ集めたのだらうと思う。

思い出多い昭和は終わった。新しい平成時代へと入った。感無量なるものがある。8ミリやっている人は前時代の昭和のオジンばかり、ということになるかも知れないが昭和の8ミリは良かった、ということも平成時代の若者たちに伝えていかなければならない。大映写の魅力は捨てるわけにはいかない。昭和の8ミリは今後もずっと守り育てていかなければならない。(合原)

★師走例会レポート

暮の17日は1週繰り上げたOMC例会の日、近鉄百貨店1回コンコースでは音楽隊が賑やかにクリスマス賛歌を奏していた。これらの曲を聞くと“今年ももう終わりか”という実感が湧いてくる。

有村氏が大正15年12月20日付の大阪毎日

新聞のコピーを持参されたが、今の天皇のご病状ニュースと同様なのに驚き、しばし話題がつきなかった。今月の出席者15名。

上映作品「柿狩り」中西康雄氏、Su M 15分。ご家族、知人らと柿狩りに車で行かれたときの記録。未編集なのでよいところを5分位に縮めて編集すればよくなる。登場人物は早目に紹介したい。またカメラを意識したカットは省きたいものだ。

「雨中のみこし」江村一郎氏、Si M 3分半。迫力ある雨中の御輿かつぎだが現録がかすかにでも入っているとよかった。「シャボン玉」岡本至弘氏、Su T 4分。一昨年春の撮影会作品だが、再編集されて持参された。よくなっている。歌謡映画の場合、カメラが動くか対象がうごくかが、主体で止っているカットは短くしたほうが良いとは、この道のベテラン有村氏のアドバイス。

「法善寺かいわい」合原一夫氏、Si M 15分。S44年作者が初めて音入れした記念すべき作品。当時の心斎橋界隈の雰囲気伝わる。「伝統を守る人々・志摩」増田栄一氏、Su T 17分。志摩の三つの祭りをまとめられた往年の努力作。「車のない街」上総修一郎氏、Su T 20分。今年の公開映写会作品。見てない人もいるので順番に持ってくるようにとの会長の配慮で持参上映された。「白馬山麓休暇村」有村博氏、Su T 20分。15年程前のニコン入選作。心暖まる家族旅行の決定版。引き続き2次会場へ。
☆1月例会は第4土曜28日。PM6時20分～於なにわ会館。新作旧作歓迎。乞多数来場

新年に寄せて

新年おめでとうございます。OMCは、今年で結成50周年を迎えることになりました。

この50年の間、小型映画の世界にも、いろいろな出来事がありました。太平洋戦争はアマチュアからフィルムを奪いましたが、戦後、ズームカメラやEEカメラの出現で、8ミリ人口が増大し、多くのクラブが次々に結成されました。そして、シングル8とスーパー8フィルムの開発は、8ミリ映画に大きなブームをもたらし、発表映写会やコンテストが盛んに行われるようになりました。しかし、残念ながらビデオカメラの普及で8ミリ映画は下り坂をたどり、カメラの生産も中止され、ほとんどのカメラ店から8ミリ機材が姿を消してしまいました。全国規模のコンテストも次々となくなり、今は「京都映像コンテスト」や「ヒロシマ国際アマチュア映画祭」等が僅かに残されているにすぎません。

また、大阪の8ミリ映画のメッカである、朝日生命ホールでの映画祭やコンテストの発表会も、一つ減り二つ減りして、エルモクラブもマスコミの注目の中で、昨年で姿を消すことになりました。今は「OMC」と「銀の会」が残るのみです。

「『完』8ミリカメラ時代」昨年11月産経新聞夕刊のトップ見出しです。こんなおり、ヒロシマ国際アマチュア映画祭事務局から届いた「映画祭だより」に、大阪発表上映会は「於 朝日生命ホール」（89年 8月24日）とあって意を強くいたしました。

8ミリ映画を愛し、映画作りを楽しむ仲間はまだまだ多く、各クラブで例会が開かれています。私たちも、OMCの伝統の灯を守り、第29回OMC8ミリ映画フェスティバルが成功するよう今年も頑張りたいと思います。皆さんのご協力をお願いいたします。

OMC結成の経過

昭和10年頃、故竹本正光氏は手回しの16ミリカメラで動く写真の醍醐味を味わっておられた。やがて9ミリ半のパテーベビーから8ミリカメラへと移行し、ますます小型映画の虜となった竹本氏が、昭和14年、同好の仲間を集めて結成された「大阪小型映画作家集団」がOMCの前身で、この時がOMCの誕生となった。戦時中も保存のフィルムで撮影を続け、戦後いち早く小形映画作家集団を復活された。そして今は亡き、札本映光、岡本好雄、村上勇、沖中陽明氏等と、8ミリ映画の黄金時代を築きあげられた。

昭和32年、月刊誌小型映画の大阪では最初の支部、「CFC友の会南支部」として、本格的な8ミリ映画の活動が始まった。竹本正光氏は初代関西本部長に就任。初代会長に竹本氏の友人の前川氏、二代目は芦名氏。そして昭和36年に故川畑健二氏が三代目会長を受け継ぎ、クラブの発展を期して「大阪南支部」の頭文字をとって「OMC=大阪ムービーサークル」と改名、現在に至っている。昭和62年12月川畑氏が他界され、その後を私が引き継ぐことになった。（経過について、野村公威氏のご協力を頂きました）

1989年1月

OMC会長 小倉宝蔵

*事務局所在地の区名が『北区』に変わりました。よろしく。

★合原一夫氏の東京便り

本社転勤で状況以来はや4カ月近くたち、平成元年も立春が過ぎて本格的な春を待つばかりである。駒込の寮近くに「六義園」という大きな庭園がある。ある休日、ビデオカメラを初めて持って撮りに出かけたが、鴨が数百羽群れており、被写体も豊富であった。カメラクラブの撮影会であろうか、望遠レンズの放列にしばし見とれていた。OMCのミニ撮影会に使ったらと遠すぎるのが残念であった。

19年ぶりの東京で、元入っていた東京映像（以前は東京エイトといっていた）の川上勝晤会長に誘われて再入会して例会に参加しましたが、東京の方の作品は関西とは少し違うなあというのが実感。モデルを使った撮影会やら、同じ脚本で作品づくりをやる等ということはやらないみたい。紀行、風土記、祭といったものが多く、この点では、19年前と殆ど変わっていなかった。

ブリジストンホールで4日行われた8ミリ新人賞発表会では、学生らの“地下街”風な作品を見たが若い人のはやはり違うなあと感ずる一方“昭和のオジン”はついて行けないなあ、というのが印象。やはり関西の楽しんで作る8ミリが気楽で良いようだ。とくに親睦第一のOMC撮影会の行き方が永続きするクラブの秘訣のようにも思える。というのが結論。OMCバンザイ！

★近江八幡撮影会無事終わる。

OMC恒例の撮影会は、有村氏の企画で2月11、12の両日、近江八幡で行われ10名

の参加があった。八幡山では雪が降るよいムードの中で撮影を開始。水郷では葦を運搬する舟など水郷風景を撮影。夜は賑やかに宴会で、これが楽しみで参加したという人もありません。結構な親睦会となった。2日目は手漕ぎ和舟で水郷めぐり、豊富な被写体でフィルムの消費量も倍増。後は良い作品を待つのみ……。

★1月例会レポート

前日より急に冷えこんだ1月28日、なにわ会館の会場は春の陽気。暖かすぎて暖房をとめてくれという悲鳴も…。エルモクラブのベテラン関剛氏、辻村定利氏が入会。小沢一之氏、桐田豊繁氏が来会され拍手で歓迎された。よろしく願います。

上映作品「クスコの谷」小倉宝蔵氏、Su T 12分。昨秋の公開映写会作品。「祭礼四季」江村一郎氏、Si M 11分。まとめ方について色々意見続出。勉強になった。「通天閣かいわい」合原一夫氏、Si M 13分。S45年の思い出の作品。19年前の新世界界隈の風俗が時代を物語る。「城ヶ島旅情」今井羨美氏、Su T 13分。公開映写会の作品だが、歌詩の入った曲が良かったのではという声あり。「飛鳥残照」横山勇氏、Su T 16分。S47年作だが、当時の情熱が伝わる。「風」関剛氏、Su T 12分。20年以上も前のアニメ作品だが素朴な画面は大変参考になった。「湖東の春」有村博氏、Su T 12分。撮影会のための参考作品。

☆2月例会は第4土曜25日。PM6時20分～
於なにわ会館。新作旧作歓迎。乞多教来場

★フィルムのコピーもできなくなるか？

東京映像クラブニュースを見ていると、師岡宏次氏が次のように述べておられる。

8ミリフィルムのコピーは、今までコダックが複製用コダクローム・フィルムを供給していたので可能だったが、どうやら複製用フィルム製造を中止したらしいというのである。しかも在庫が3月一杯持つかどうかというところまできているという。

大映写するにはビデオより8ミリが良いというので、8ミリを複製して分けてやったこともあるが、今後はビデオへの複製しか出来なくなるらしい。

こうして商売にならないからといって、付随的な消耗品（スプライステーブなど）や部品（エジター豆球とかスプライサーの替刃とか）の供給まで途絶えたらと思うと淋しさを通り越して憤りさえ感じてくる。

あとは買い溜めとか、節約して使うなどの自己防衛しかないが、何とか工夫して8ミリの灯だけは守っていききたいものであるし、また守っていかなければならないと思う。こうなれば正に意地でもある（合原）

★公開映写会日取り決まる

本年度の公開映写会は10月20日（金）、朝日生命ホールで開催と決定。ホール借用の手続きも終了した。この上は会員諸氏の作品を待つばかりだが、定評あるOMC公開映写会の伝統を守るためにも、ぜひ“この一作”をモノにしていきたい。とくに“今年こそ私も…”の意気に燃える新規の方の作品を期待したいものである。

★撮影会作品の締切日は5月例会日

先ほど行われた近江八幡撮影会の作品は5月例会で出席者による公開審査で、トロフィーを競うことになった。参加者はぜひ出品されるようお願いしたい。

★2月例会レポート

例会日の2月25日は朝から冷たい雨で、会員諸氏の集まりも今ひとつ盛り上がり欠けたが、久方ぶりに野村さんがアニメを引っ提げての参加と、江村さんが横断歩道の人の流ればかりを追った異色の作品で話題も十分、賑やかで楽しい例会となった。

上映作品 「おばあちゃんの洋行」辻村定利氏、Su M 17分。息子さん夫婦の招待でアメリカ見物を楽しまれたときの記録。貴重な思いでアルバム。「白川郷」増田栄一氏、Su T 12分。昨年度公開映写会作品。撮影は10年以上も前でテレビアンテナも見えない素朴な家の造りが印象的。「湖の糸」前田茂夫氏、Su T 12分。S 55年OMC撮影会に肉付けしてまとめられた往年の名作。「幻想の炎」金子博泰氏、Su M 6分。伏見稲荷の狐像等を抽象的に表現しようと試みたものでしばし話題が尽きなかった。「遍照金剛」有村博氏、Si T 18分。四国88寺お遍路さんを追ったかつての努力作。「桃色吐息」野村公威氏、Si M 4分。誰にもマネの出来ない野村アニメの世界。「人波」江村一郎氏、Si M 5分。話題十分な作品。

★新入会者：金子博泰氏、どうぞよろしく。
☆3月例会は第4土曜25日。18時20分よりなにわ会館。新作旧作歓迎。乞多数御来場。

★合原一夫氏の東京便り(2)

いよいよ4月1日より消費税3%がかかるというので、近くのスーパーへ今のうちにと買物に立寄ったが、大変な混みよう。

釣られて日用雑貨、保存食品など袋一杯買っちゃった。単身赴任をしていると生活用品の値段にも関心が向くようになる。明日から消費税という前日、秋葉原へ立寄ってあちこち見て歩いていたら、オープンテレコ用のテープと空リールを置いている店にでくわし、すっかりうれしくなってしまった。早速5本ずつ買い求めたが、近頃はめったに売れないから棚の一番上に置いてあるのだという。

4月1日、近くのパン屋さんできっちり3%とられた。スーパーしかりである。新聞によればフィルムは物品税が無くなるので安くなると書いてあったが、8ミリフィルムが安くなったかどうか。

会社の近くにある「ヒカリカメラ」の親父に誘われて同店で行われた瀬戸市の加藤雅己作品を見る会へ行った。氏の話で名古屋の伊藤紫英先生が今朝亡くなられたことを知らされ、参加者一同一分間の黙祷を捧げたが、8ミリコンテストの審査員だった伊藤先生とは何回もお会いしており、また8ミリ界の巨匠が一人消えたかと感慨深いものがある。加藤雅己氏も8ミリ界の大御所であるが、氏の作品に教えられるところも多かった。現役でまだ作品をつくっておられるところがいい。東京も桜の季節が過ぎ、散策にも気持のいい季節を迎えた。

★3月レポート

今月は香島、三木両氏が久方ぶりに出席されたうえ、元エルモクラブの桐田豊繁氏が新しく入会されるなど、20名近くの出席者があり、作品も8本を数えて賑やかで活気ある例会となった。香島氏もすっかり元氣を取り戻された様子で安心した。

上映作品 「錦秋」金子博泰氏 Su. M. 6分。美しい画面だが紅葉のアップが欲しいとの声あり。「京都花花花」桐田豊繁氏 Su. M. 9分。京都と花の組み合わせの狙いはよかったが、観光映画か、花をみせるのかどっちつかずになったのが惜しい。「冬の彩り」金子博泰氏 Su. M. 6分。きれいな画面である。後半が雪なしで平凡なので再構成されるとよい作品になろう。「もうひとつの京都」今井羨美氏 Su. T. 16分。1982年OMC撮影会作品。柴谷氏演出の努力作ではあるが、画財が多過ぎてかえって印象を薄くしている面もある。「能登の顔」辻村定利氏 Su. T. 7分。5年前のエルモクラブ撮影会作品。アップの迫力十分な作品。荒波一発有ればもっとよかったという声があがった。「有明の海苔」合原一夫氏 Si. M. 12分。第6回シングル8コンテスト入賞作品。海苔の採取状況が珍しい。「スキー」三木義晴氏 Su. サイレント 14分。お勤め先の高校でのスキー行記録。帰りにバス追突事故に有ったと裏話。「獵犬」江村一郎氏 Si. M. 4分。ダイナミックな描写はさすが江村氏である。

☆4月例会は第4土曜22日、18時20分よりなにわ会館。新作旧作歓迎。乞多数御来場

★合原一夫氏の東京便り(3)

会社の技術研究発表会で、ソニーのビデオプロジェクター?が会場に備えてあり、その明るさにびっくり。横幅4mもある大スクリーンに、これがビデオかと驚くほどで技術の確かな進歩のほどを感じた次第。

同じようなことを去年もやったがピントも色も明るさも見られたものではなかっただけに感慨深いものがあった。

しかし、こうした何百万円もする装置はとてアマチュアではどうにもならず、例会は勿論、公開映写会もまだまだ8ミリには及ばないことに安心感も覚えるが、何やら複雑な心境にもなってくる。

★4月レポート

造幣局の桜の通り抜けからつつじの花の季節ごろが一番すがすがしくてしのぎ易い頃である。そこで4月例会の集まりも今月こそ20名の大台を越えるかと期待したが、僅かに及ばずの17名だったが、先ずは“盛会”とすべしか。今月はOHクラブの若林三郎氏が招待作家として特別参加され「水のメルヘン」を観せていただいたが、美しい水の表情が印象的であった。若林さん有難うございました。

今月は、欠席の有村氏に替り小倉会長が進行係担当「This is Papua New Guinea」小倉宝蔵氏、Su T 18分。戦時中大激戦地となったパプアニューギニア。原住民の姿が異国情緒たっぷり。14年前の作品だがその後どう変わっているか、もう一度行ってみたいと…、タフな会長である。

「花の古都」長網俊昭氏、Su T 7分。半日で撮り上げたにしては落ち着いて良いカットも見られるが、かんじんの梅の花が白い空をバックで映えないのが惜しい。つぎに金子氏のマグネ作品を上映し始めたら突然映写機の音声部分が故障、ウンともスンとも言わなくなった。いつもはテープ作品が多いのにこの日に限ってマグネ作品が多いと恨めしげな映写係。気を取り直して会館に映写機を借りについている間、増田氏のテープ作品から上映することになった。

「花の尾瀬」増田栄一氏、Su T 11分25秒。水ばしょうなど自然の美しさはさすが尾瀬である。感心して観ていると映写機が借りられたと連絡ありホットする。「炎の祭典」金子博泰氏、Su M 7分30秒。会館の映写機が何年も使われていなかったのか油がねばりついてスピードが定まらず、ワウが出て作者には失礼した。前田氏が手で回転の手助けをしてくれはOK。護摩たきを走りまわって撮られた努力作。「春」江村一郎氏、Si M 5分35秒。ポエム風描写に新境地を見出せられたか。「フラワー園のひととき」桐田豊繁氏、Su M 5分。京都植物園で珍しい花や大サボテンを。「シャボン玉」今井羨美氏、Su M 4分。一昨年春のOMC撮影会入賞作品。「モスクと尖塔のある風景」横山勇氏、Su M 6分30秒。中央アジアの旅でBGMがぴったり。

★近江八幡撮影会作品公開審査は5月例会。
☆5月例会は第4土曜27日。18時20分より。
なにわ会館。撮影会以外の作品も歓迎。

8ミリ映画撮影会ご案内

下記のように撮影会が開催されますのでご参加下さい。

- 主催 関西小型映画連盟
日時 1989年5月28日(日) 10時～15時
集合場所 南海本線岸和田駅出口。午前9時30分(受付は9時45分まで)
参加費 1,000円(関小連加入クラブ会員<OMC会員>)
一般参加2,000円 *不足分は関小連補助
参加申込 5月25日までに、電話で事務局小倉会長まで。
撮影内容 岸和田城と岸和田港一帯で、モデル(女)を使ったムード映画。
シナリオ、撮影進行は吉田フミオ氏。

注. 1.雨天の場合は6月4日に延期。

天候不安定のときの間合せは、7時半までに吉田氏(Tel 0727-51-8782)に。

2.ビデオカメラでの撮影会参加は出来ません。

3.昼食は岸和田城内にも少しありますが、弁当持参か、駅前でなにか買って持参するほうがよいようです。

第5回京都映像コンテストご案内

今年も京都映像コンテストの作品募集が行われます。

募集課題

- ① テーマ部門“京都”を対象に3～10分の作品(京都を対象にしたものならどんな内容でもよい。)
- ② フリー部門 テーマは自由3～10分の作品

応募規定

ビデオ作品はVHS、ベータ、8ミリ。フィルム作品は16ミリまたは8ミリ。

1988年7月以降に完成された、未発表作品にかぎる。

応募期間 1989年7月1日～9月30日

賞 最優秀作品 テーマ部門1点(トロフィー・賞金50万円と副賞) フリー部門1点(トロフィー・賞金50万円と副賞)

佳作 2部門とも各2点(賞・賞金10万円と副賞)

作品提出と問合せ 東映太秦映画村・映像コンテスト係

〒616 京都市右京区太秦東峰ヶ岡町10 Tel 075-871-3820

★梅雨の晴間に

梅雨入り宣言後の日曜日、昨夜来の雨も上がったので、万博公園の花しょうぶでも見に行こうかと、8ミリカメラをかついで出かけた。途中千里中央のなにわカメラに寄り、シングル8のフィルムを買おうとしたが、売れないので置いていないという。あわてて別の店にいったらサウンドフィルムなら在庫があり、期限切れになりそうで、半額にするから買ってくれという。サウンドカメラでないのご辞退し、結局フィルムは買えず仕舞い。ビデオテープの山を横目に引き返した。天下のなにわカメラでも千里中央あたりでは8ミリはもう片隅にもおかないという時代になったか。(合原)

★ヒロシマ国際コン、旅の8ミリコン入選

第8回ヒロシマ国際コンに、秦峰一氏の「育てオオムラサキ」が入選。CFCサロン主催の旅の8ミリコンに、小倉宝蔵氏の昨年OMC公開映写会で上映の「クスコの谷」が入選。おめでとうございました。

★5月例会、20名を越す盛会

5月例会は久々に20名の大台を越す21名のメンバーが集まり賑やかな例会となった。上映作品「瀬沢岳へ」華岡汪氏 Su T 26分。5月の未だ残雪の残る山へ登る撮影は大変だろうと思うが、なかなか丁寧な撮られた長編。構成に少し難があり再編集されたら良い作品となろう。公開映写会用の1本がキープされた。「寂光院」金子博泰氏、Su M 8分。平家物語の語りを使い、難しいテーマに挑戦。意欲は買えるが消化不良気味。

★近江八幡撮影会作品は森保信氏が最高点

5月例会後半はお待たせ、春の撮影会作品の公開審査で全部で5本が出品された。上映トップは森保信氏 Su T 10分。撮影会後にも何回か撮り足しに出かけられた効果ありあり、なかなかの出来、11票で唯一人優秀賞に輝いた。題名は「心はいま近江八幡」という何やら魅かれるネーミングだ。

「近江八幡は今」前田茂夫氏 Su T 12分、入選。落ちついた作風はさすがベテランの味。BGMも作者がコンピューターを使って入れられたとか。「風光る」辻村定利氏 Su T 8分。いいカットが随所にみられた。ナレーションを省きBGMだけで構成。

「春近し近江八幡」江村一郎氏、Si M 7分入選。いつもの短いカットによるダイナミックな構成とは打って違って、しっとりとした味を見せる。「心はいま近江八幡」今井美美氏 Su T 12分、入選。撮影会後も祭りを撮りにいかれたりして努力して作られた作品。結構でした。有村氏が企画担当の立場から作者の努力に謝意を表された。

以上公開審査は終わったが、香島氏が久々に持参された作品があるというので再度一般作品の上映。「恋あざみ」香島淳一氏 Su M 4分。本日仕上げたばかりという歌謡映画。ベッピンサンの顔が曇天で冴えず。
☆公開映写会10月20日。朝日生命ホールプログラム作成上、作品の制作状況把握の要有り。7月例会で乞作品のノミネート。
☆6月例会は第4土曜24日。PM6時20分。於なにわ会館。乞、ご出席と作品持参。

OMC News

発行 大阪ムービーサークル事務局 小倉宝蔵

〒531 大阪市北区長柄東2-1,21-204
TEL (06)357-7281

'89.7 No.284

★合原一夫氏の東京だより(4)

先日、東京地区の各クラブから作品を出し合って8ミリ映画フェスティバルが行われたが、朝の10時から始って夕方5時まで25クラブより24本の作品が上映されるという催しがあった。毎年行われていて今年も23回目とか。大阪の朝日生命ホールよりひと回り大きな会場で、70~80%の入りであったろうか、中には昼の弁当持参組もいてなかなかの賑わいを呈していた。大阪ではとても考えられない風景で、さすが東京だと思った。作品も5分という短いものから20分という長編まであり、内容もかなりいいものがある。楽しくもあり、参考にもなった。東京都の後援と補助金があるとのこと。東京と大阪の文化政策の違い?

★公開映写会作品申込み7月例会で

10月20日(金)に決ったOMC公開映写会作品ノミネートは7月例会の際、会長までお願いします。作品はその後で結構。

★春の撮影会作品にトロフィー授与

優秀賞に森保信氏、秀作賞に今井羨美氏、前田茂夫氏、江村一郎氏。拍手!

★6月例会レポート

今月より滝野繁次郎氏が新入会、拍手で迎えられた。シングル8カメラの故障からスーパー党に変わられた由。仲間が増えることは大歓迎である。滝野氏住所次の通り
〒536 大阪市城東区今福西1-3-19

Tel 06-931-0114

さて、例会当日は朝から美空ひばりさんが死んだというニュースで話題が持ち上が

っていたが、追悼の意味で早速持ってきたと金子博泰氏。「悲しい酒」をトップ上映。(Si M 4分50秒) タイミングの良さで話題を独占した。続いて「再会」森保信氏、Si サイレント10分。関小連撮影会作品だが、どうまとめていいかわからないと作者もサジを投げた形だが、観客席も首をひねるばかり。タイトルから変えた方がいいとの声も。「姿美しく」金子博泰氏、Su M 5分。大阪城公園ビジネスパークの建物を中心に撮影されたが、ねらいは面白いもののビデオと違って建物の中の人物がいかにも光量不足。またスライド的で動きが少いことも指摘された。「新緑のアマゴ釣り」滝野繁次郎氏、Su M 14分。この種の氏の作品はシングルとしては多いがスーパーでは初めての作品。ラジコンを使い自作自演は大変な努力。選曲のアドバイスが有村氏よりあった。「古都騒めく」辻村定利氏、Su T 9分。シルクロード博を映像的にとらえた秀作。紹介映画になり易いテーマを、どう割り切って映像化するか、考えさせられる作品であった。「水ぬるむ頃」小倉宝蔵氏、Su T 7分。淀川べりのスケッチだがきれいな映像である。批評してほしいと作者の希望で、一言づつ全員言いたい放題。アラ?も探せばあるものである…。「瀬沢岳へ」華岡汪氏、Su T 13分半。5月例会の作り直し。ずっと良くなっており公開映写会の1本は決まりか。
★秋の撮影会どこぞええ所ないか乞御一報。
☆7月例会は第4土曜22日。開会 6時20分。
於なにわ会館、多数のご出席と作品持参を。

★切手代をカンパする公開映写会

—合原一夫氏の東京だより(5)—

先日、池袋の豊島公会堂で行われた「山岳映画サロン夏山の夕べ」なる8ミリ映画公開映写会を見に行く機会があった。定員1000名の大会場に800名以上も入るといふ盛況にまず驚かされた。若いアベックやら中年のおばはん達、年配の男達やら夫婦らしい組やら、大阪での公開映写会とは全く違う観客の雰囲気である。お弁当を食べる人、パンをかじる人、おせんべいをバリバリやっておしゃべりする人など賑やかさも大変なもの。山歩きの好きな人が多いのであろう、高山植物のお花島がスクリーンに写し出されると「うおーっ」といううなりにも似た声がわきあがる。8ミリもこうした形で大衆に受け入れられていることもあるかと考えさせられた。入場のとき封筒を渡されたが、なぜだろうと思っていると司会の方から各自の宛先と名前を書いて、切手代として何がしかのお金を入れてくれというお願いである。聞けば年2回映写会をやるので次回ご案内を差上げるための郵送料だという…。成程、ウマイ手を考えたものである。カンパとして千円札の1枚も入れた人も含めて百円玉1個平均としても800人で8万円の経費が助かるという計算だが、さて関西でこの商法が通るかどうか。

★7月例会レポート

美空ひばりの本葬の日だといってテレビで実況を長々とやっていた日、その日は参議員選挙活動最後の日とあって街の騒音が

すごかった日、そんな日の夜が例会日であった。例会はそんなこととは無関係になごやかで1カ月ぶりに会う仲間との会話と8ミリ上映を楽しんだ。今月は他クラブのベテラン細見正氏が参観者として出席されたが、ぜひ当クラブにも入っていただきたいものである。

上映作品：「塔のある風景」森保信氏、

Su M 10分。ある寺院に参拝する人、お百度を踏む人と供養塔、仏像等を描いておられるが構成に難。ラッシュなので完成が期待される。「あじさいの季節」金子博泰氏、Si M 7分。あじさいの色をきれいに撮るのは難しいことを教えてくれる作品。

「あじさい」江村一郎氏、Si M 4分。花と人物とのフォーカス移動による描写は良いが、全体にねらいがあまい。選曲にも注文がついた。「松江叙景」桐田豊繁氏、Su M 8分。手持ち撮影が惜しまれる作品内容だが、あわただしい旅先では大変な努力があったと思う。「滝ウォッチング」滝野繁次郎氏、Su M 6分。赤目48滝の滝めぐりと奥さんとされたときの記録。再構成によって良くなる作品だ。色々参考意見が出た。

「石たちの語らい」有村博氏、Su T 8分25秒。過去と現代と石像を通して語ってみたいとの意図と思うがねらいは面白い。頑張ってもう一步の突込みを。「石のモニュメント」上総修一郎氏、Su T 23分30秒。エジプトの石像をたんねんに撮られた努力作。

☆8月例会は第4土曜26日。開会 6時20分。於なにわ会館、乞多数のご出席と作品持参。

★虹の会発表会でアニメ原画の形見分け

—合原一夫氏の東京だより(6)—

去る9月14日東京で虹の会の23回発表会が新宿安田生命ホールで行われたので見ていった。会場には120名ぐらい入っていただろうが空席が目立った。あとで聞けば、普通1500通ぐらい案内状を発送するのに今回は500通しか出さなかった由、それだけPRが行き届かなかったのではないか、という訳だったが、名古屋あたりから東京へ出てきて発表会を催すということは何かと大変なことには違いない。

さて入場のとき封筒を渡されたので開けると故伊藤紫英先生の自筆アニメ原画が2枚入っていた。10×9cmの薄茶色の紙にペンで線描きした簡単なものだが私には上半身像と手のアップが入っていた。伊藤紫英先生は映画評論家として有名であるが、自分でも映画をつくるという話は聞いたことがなかった。しかもアニメをである。プログラムにも追悼映写として上映された。

虹の会も加藤雅己氏、柏木喬氏を中心によく活躍しておられるようだ。

★公開映写会プログラム決まる

10月20日(金)へ向け着々準備進行中。プログラムは10月始め発送の予定です。動員その他のご協力をお願いします。

★8月例会レポート

外は残暑きびしいが会場は冷房が効き、今月は新入会者を含め20名の大台を越えてまずまずの盛会だった。さて映写機をセッティングしてみるとマグネの音声が出ず大慌て、

小倉会長が急ぎ自宅へ映写機を取りに帰るというハプニング(原因はヒューズ切れてした)。例会で機械の故障は怖いものであるが、さりとて常に予備を準備することも出来ないし、大事に取り扱うほかはない。

「砂かけ祭」増田栄一氏、Su サレト 14分。大和路に伝わる3つの祭をどう構成するか。

「誰もいない闘牛場」上総修一郎氏、Su T 4分30秒。短編ながら狙いがよく話題沸騰。

「尾瀬紀行」辻村定利氏、Su T 6分30秒。

5月下旬誰もいない尾瀬を女性が1人歩く。尾瀬は人で一杯かと思っていたが、聞けば数年前の撮影とか。「27年目のふたり旅」

合原一夫氏、Su T 17分。公開映写会予定作品。「28年目の浮気」を作ってもらいたいとの冷やかしも。「鈍行列車の旅」滝野

繁次郎氏、Su M 14分30秒。同録ラッシュ。

ビデオにぴったしの映像だが、ナレを入れ印象を語ったらどうだろうか。「火と湖の国ふくしま」

桐田豊繁氏、Su M 18分。アップが少ないのが残念だが努力作。ひとし

きりアドバイスの声が賑やかだった。「友達」江村一郎氏、Si M 9分30秒。関小連の撮影会作品。演出についての声が話題に。

★今月の新入会者

細見 正氏 豊中市富山町2-20-10

TEL (06) 855-3758

村田英夫氏 豊中市上野西2-14-20

TEL (06) 852-5826

☆9月例会は23日18時20分。祭日と連休中で何かと予定もおありでしょうが万障繰合せの上ご出席を。作品の方もよろしく。

★2年前に期限切れフィルム使用始末記

—合原一夫氏の東京だより(7)—

東京都文京区本駒込に私が住む会社の単身赴任寮がある。3階の個室の窓下は駒込天祖神社の境内である。去る休日、窓下が賑やかだと思ったら祭りの日であった。聞けば御輿が出るという。へえー、こんな大都会の片隅でもそんなハデな祭りがあるのか、郷愁を感じながら祭り見物に出かけた。

ふと思いついて冷蔵庫に入れっぱなしにしておいたシングル8フィルムを取り出してみると、何と2年前に期限切れになっていてびっくり。しかし、捨てるのももったいないと撮影してみた。ファインダーをのぞいていると、御輿をかつく迫力あるカットに、つい期限切れフィルムであることを忘れて夢中で撮った。

現像上がりは少し色がへんだし、ピントの甘さが気になった。期限切れフィルムだとピントにシャープさが欠けるようになるのか、或いはピントの合わせ方に問題があったのかは判らない。だが、まあまあ記録作品として我慢できる範囲であると思った。冷蔵庫に置いておいた効果だろう。

★動員へ最後のお祝い/20日の公開映写会
観客動員に御協力をお願いします。

★9月例会レポート

朝夕めっきり涼しくなった9月例会日、会場のなにわ会館も結婚式の季節到来だ。

定刻30分前に世話役、出品者が集まり公開映写会の役割分担等が話し合われた。今年からエルモ社の機材が借りられないので、

横山勇氏に一式ご無理を願うことになった。

上映作品:「漁村旅情」森保信氏 Si M 5分。フジ撮影会作品の歌謡映画だが曇天で色が冴えないのが惜しい。「杭^{クマタ}全神社夏まつり」桐田豊繁氏 Su 10分。大阪平野区にあるだんじりを撮り、ナレーションも入れて努力されているが、広角レンズの多用が過ぎるとピントの甘さがマイナスとなった。「津軽」増田栄一氏 Su T 16分。かつての公開映写会作品で、氏の若さあふれる?頃の作品。何回となく津軽を訪ねてモノにされた。「タビ・カメラ・ニホンジン」小倉宝蔵氏 Su T 10分。10年以上も前の関小連公開映写会用作品。氏の若い頃?のエネルギーな作風を思い出させてくれる作品であった。「残像」江村一郎氏 Si M 9分。いいカットもあるのだが画面明瞭意味不明のところがあり“難解”なる作品、しばし議論沸騰した。

9月例会は作品が少なかったので早目にいつもの二次会場へ席を移したが、恒例だと“一杯呑み派”と“喫茶派”に分れる筈が、どういうわけか全員喫茶店へ集合!

★新年会 1月14日(日)なにわ会館にて

来年のことを言うとか鬼が笑うといいますが、会場予約のことも早目に決めました。今からよろしくご予定の程を(堀池)

★お詫び:先月号で紹介しました細見正氏の住所「富山町」は、「宮山町」の誤りでしたので、訂正いたします。

☆公開映写会の後ですが10月例会は予定通り28日18時20分開会。作品持参乞御来場。

★東西“出品料”考

—合原一夫氏の東京だより(8)—

東京で私の入会している東京映像が恒例の第24回8ミリ映画発表会を、新宿西口安田生命ホールで11月16日(木)開催することになり、私にも呼び掛けがあったので、一昨年朝日生命ホールで上映した「うちのかみさん」を出品することにした。出品料は幾ら位かとたずねると、20分の長尺だから4万円ほどだといわれてびっくり。10分で2万円とか。フィルムの長さにはほとんど正比例して徴収されるらしい。しかもスポンサーもなし、寄附金もなし、経費の全部を出品者が出し合うというしくみなのだ。「しまった、短編を出すんだった」と思ったが後の祭り。

こうしてみるとOMCのようにフィルムの長さに関係なく1人いくらという、しかも応分の負担におさえたやり方と、東京映像のように“時間を買取る”といった発想のやり方があるものだと感じ入った次第だが、何か割り切れないものが残る。また、フィルムは当日持ってくること、ということだが、都合で遅刻したり、或いは来れなくなったりしたら大変だなあとも思う。

ヨソのクラブの楽屋裏ばなしでした。

★まずまずの公開映写会

OMC8ミリフェスティバルは10月20日朝日生命ホールで行われたが、皆様のご協力でまずまずの盛況で無事終了することが出来ました。厚く御礼申しあげると共に、来年へ向け作品構想の方もどうぞよろしく。

★10月例会レポート

例会日の10月28日はプロ野球日本シリーズ第6戦目の日、近鉄百貨店前のテレビは黒山の人だかり。一球一打で大喚声、今日勝てば近鉄優勝大安売り開始とあったが、結局負けて、しかも翌日も負けて一巻の終り。勝負なんて分からんもんである。

さて、例会開始前のひととき、野球の話よりコダックの現像料が高いとのボヤキ声やらフジZ 800の部品がないから修理してもらえないといった悲観話ばかり…。

上映作品 「緑地公園の散歩」桐田豊繁氏、Su M 7分。軽いスケッチ、天気が悪いのが惜しい。「わが家の記録」滝野繁次郎氏、Si M 18分。16年間に渡った子供の成長記録は貴重な家庭の記録。「京都の秋祭り」金子博泰氏、Su M 8分。京の舞子さんが出て目を楽しませてくれた。後半は時代まつり風の安井神社のくし祭り風景を描く。「ふるさと萩」田中正文氏、Su T 20分。郷里へ行くたびに撮り溜めをして一本にまとめられた努力は買うが、構成にもうひと工夫欲しかった。「村祭」細見正氏、Si M 10分。能勢の奥地で撮られたが情景描写がよい。BGMについて意見が続出、話題を提供した。「あゝ通り抜け」合原一夫氏、Si M 6分。造幣局の桜の通り抜けを変わった角度で表現。「わかき賛歌」辻村定利氏、Su T 5分。制約多い国体開会式での苦心の撮影と編集。

☆11月例会は第4土曜25日。作品持参多数ご出席を。会費(5千円)納入もよろしく。

★今年も師走……

今年も早や師走、一年ぐらいあつというまに終わってしまうものである。そう思うとなおさら一日一日を大切に生き甲斐を見出して充実した日を送りたいものである。映像づくりは想像の世界でもあり、それにのめり込むことの出来る一日は充実した一日と言えないだろうか。さて、11月例会は所要で副阪できず出席できなかったのが残念だったが、12月例会も第3土曜で出勤日となりまたも欠席となりそう。今月のレポートは小倉会長にお願いした。(合原記)

★新年度も世話役、分担は継続で

11月例会開会前に開かれた世話役会で、90年度の世話役について話し合いがもたれ会長と一部世話役から交替の申し出があったが、最終的に前年通りで決定、例会でも承認された。相談役：横山、堀池、上総。会長兼総務：小倉。会計：増田。広報：合原。企画：有村、岡本、花岡。月例会担当：進行・有村、映写・前田、岡本、今井の各氏、お世話ですが今年もよろしく願います。

★'89年度会計決算報告

89年度会計決算が例会で承認された。一般会計の収入 260,920円、支出 225,739円(繰越金、繰出金を除く)、フェスティバル会計の収入 100,000円(繰越金、繰入金を除く)、支出 238,885円でした。

★'89年度賞決まる

年度賞は、恒例により会長の選考によって次のように決定した。(過去にグランプリを2度以上受賞した人は対象外とされる)

会長賞に「もう一つの天神祭」吉村氏、「瀬沢岳」花岡氏の2本、OMC賞に「石のモニュメント」上総氏、「古都騒めく」辻村氏の2本、おめでとうございます。

★今年度も10月にフェスティバルを開催

世話役会で'90年度のフェスティバルの開催について話し合われ、予算面等の問題はあがるが「やるっきゃない!」との声が多く開催することが決定された。期日は10月19日(第3金曜)、今から作品の制作に取り組み、伝統あるOMCの映写会の成功を

★11月例会レポート

暖かい天気が続いている中での例会であったが、どうしたわけか常連の欠席が多く15名の少し淋しい例会となった。作品は新旧9本が出品され2本が時間切れ翌月回しとなった。上映作品：「三浦半島と房総の旅」桐田豊繁氏、Su M 14分30秒。旅の記録だが天気が悪く残念。「古都散策」森保信氏、Su M 7分。シングル8の秋の撮影会作品。モデルの扱いに話題集中。「錦秋」金子博泰氏、Su M 5分50秒。美しいカットで、構成にひと工夫されたらよくなりそう。

「火たきまつり・かぐらまい」村田英夫氏、Si M 7分30秒。アップの効果がよい。「山伏に降る雪」細見正氏、Si M 5分40秒。大降りの雪がほしいが、よくまとめられている。「信濃路の旅」田中正文氏、Su T 14分。同窓会の旅の記録。「隠岐」増田栄一氏、Su T 15分30秒。87年公開映写会作品。
☆12月例会は年末のため1週間早く第3土曜16日。お間違えないよう作品持参乞出席